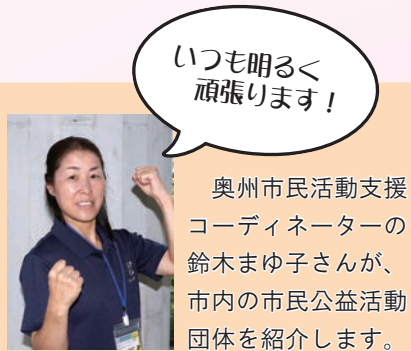




いつも明るく
頑張ります！

奥州市民活動支援
コーディネーターの
鈴木まゆ子さんが、
市内の市民公益活動
団体を紹介します。

市民活動支援コーディネーター

市民公益活動（市民による自主的・自発的な社会貢献活動）を行う団体を支援することを目的に本年度から新たに設置しました。団体の皆さんの話を聞きながら、情報発信や相談などを行っています。

■問い合わせ

地域づくり推進課 市民活動係
（江刺総合支所・☎ 34-1618）

思いをカタチに 地域づくりの輪



岩手奥州ダブルケアの会

ダブルケアとは、育児と親の介護など、ニーズの異なる複数のケアを同時に担っている状態のことをいいます。現在、日本では晩婚化、出産の高齢化、少子高齢化などが顕在化してきており、今後、ダブルケアに直面する人が急速に増えていくと予測されています。

「岩手奥州ダブルケアの会」代表の八幡初恵さんは、ダブルケアの経験者。ダブルケアだった当時は「なぜ自分はこんなにもつらいのか」と、自分の気持ちを整理できないまま、育児と介護を同時に行っていました。その経験を生かし、同じような境遇の人たちが話を打ち明け合いながら悩みを共有する場があれば――。

また、ダブルケアの問題をより身近に感じてもらうため、シンポジウムや講演会などを開催しています。多くの人に現状を知ってもらい、ダブル



同じ境遇だからこそ話せることも。ダブルケアカフェ

そんな思いから平成28年に「岩手奥州ダブルケアの会」を設立しました。

当事者に寄り添って

会では、市内や花巻市でダブルケア当事者同士のおしやべり会「ダブルケアカフェ」を開催しています。育児や介護の悩み・思いを安心して話せる場として、参加者の心のよりどころとなっています。



ダブルケアラーの支援に何ができるか。グループワーク

明るい未来のために

内閣府の「育児と介護のダブルケアの実態に関する調査」によると、ダブルケアに直面している人は全国で約25万人（女性約17万人、男性約8万人）。そのうち、約半数が育児を負担に感じており、また3人に2人が介護を負担

ケアラ（当事者）を支援してくれる人を増やしたいと思っています。

このような活動を通し、ダブルケアラーに寄り添いながら、周りの人たちの理解や協力の必要性を広めています。



ブログでダブル
ケアカフェの日
程や様子をお知
らせてしています

■問い合わせ・相談先 岩手
奥州ダブルケアの会 代表
八幡初恵（☎ 090-136
471-2500、✉ wcare.os
hu@gmail.com）

一人で悩まず参加を

ダブルケアカフェは、水沢のメイプルで毎月、江刺保育園子育て支援センターで隔月開催しています。詳しい日程はブログまたはお問い合わせください。また、ダブルケアに関する相談も受け付けています。

と感じています。

初恵さんは「ダブルケアラーが一人で抱え込まず、気軽に参加できて気持ちを共有できる場づくりに努め、5年後、10年後に、奥州市にダブルケアの会があつて良かった、と思われる会にしたい」と熱く語りました。

<今月の表紙>

2019 奥州ころもがわ祭り

2019 奥州ころもがわ祭りが8月18日、古戸商店街などで開かれ、騎馬武者先陣行列やお石さま行列などが行われました。初開催となった行政区対抗「弁慶の玉入れ大会」では、参加者が弁慶の持つ籠に向かって笑顔で玉を投げ入れ、楽しみながら親睦を深めていました。



Public Relations Magazine Oshu City

2019. 9 Vol.163

広報おうしゅう
令和元年9月号

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 思いをカタチに 地域づくりの輪
- 4 大切な命を守りたい
- 6 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり
- 8 多様な文化と共に生きるまちづくり
- 9 スポレク奥州2019を開催します
- 10 街diary
- 12 奥州の夏まつり2019 グラフ
- 14 ILC希望のひかり
- 15 地域おこし協カタイムス
市長コラム「おうしゅう羅針盤」

- 16 いいとこ、知っとこ おうしゅう
- 17 まなびの里
- 18 もっと安心 ずっとおうしゅう
はい、こちら総合相談室
- 19 子そだて広場
- 20 インフォメーション
- 24 奥州遺産



キラリ輝く
奥州人

千葉 隆矢 さん（19歳）

=水沢字川原小路=

憧れの消防団に入団し 活躍を誓う

訓練された機敏な動作に、真新しい活動服の心地よい衣擦れの音が鳴る。今年4月、当時18歳で市消防団に入団したのは千葉隆矢さんだ。

幼少期、消防団員の母、佳代さんに何度も連れてもらった屯所や消防行事。次第に動きや号令の真似をして遊ぶようになった。「一日でも早く入団したかった」という隆矢さんは、高校卒業直後の4月1日に念願の入団を果たす。

入団からわずか5カ月間に、日高火防祭での纏振り、操法競技大会、中継送水訓練

まだ経験したことがない火災出動に備え、先輩団員から消防設備の取り扱いの指導を受ける

と行事に積極的に参加。「練習を重ね、本番で一番うまくできた部隊訓練が楽しい」と目を輝かせる。中学・高校で励んだ社交ダンスに通じるものがあるという。さまざまな年代、職種が集まる消防団。活動を通じた交流の中で、仕事や遊びのことも教えてもらっている。「先輩たちから支えてもらっていると感じる。これまで受け継いできたものを引き継ぎたい」と隆矢さん。

「来年の操法競技大会では部で優勝し、さらに個人でも優秀番員賞を目指したい」と意気込む。



ちば・りゅうや◎平成12年、水沢生まれ。市消防団第1分団第1部の団員。医療福祉専門学校に在学中。趣味の社交ダンスでは高校時代全国6位の成績を持つ。父母、妹、弟の5人家族